

この単元で活用する題材（教材「三重の文化」掲載ページ）

木曾三川と治水(P4) COLUMN 輪中(P7) お茶栽培(伊勢茶)(P15) 大台茶(P50)

単元名と単元目標

【教科名・分野名】社会・地理的分野 【単元名】資源や産業の特色(地理第2部2章3節)

【単元目標】

日本の農業の現状と課題を、地域教材を用いて理解する。

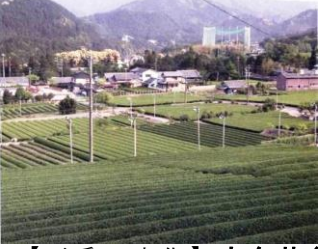

題材と単元との関わり

・日本の諸産業の現状と課題を扱う上で、輪中の稲作、水沢の茶、など、三重の文化に掲載されている身近な地域の事柄を教材として用いることで、学習への興味付けとしたい。また、三重県の農業の現状と課題を理解することで、これからの農業のあり方について、考えさせたい。

単元の展開（全2時間計画）

次	主な学習内容	指導上の留意点 教材「三重の文化」との関連
1 次 (1時間)	<p>【単元を貫く問】三重県ではどのような農業がおこなわれているのだろうか。</p> <p>【輪中と水害と稲作】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・輪中地帯の歴史について確認する。</li> <li>・【三重の文化】<u>COLUMN「輪中」(P7)</u>で避難場所確認。</li> <li>・図から気付くことは？</li> </ul>  <p>【三重の文化】<u>木曾三川の河口付近(P4)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・稲作農家の苦労・悩みを考察する。</li> <li>※世界の米の生産量と米の輸出量を確認する。</li> <li>・解決策を考察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【三重の文化】<u>木曾三川と治水(P4)</u>で宝暦治水、ヨハネス・デ・レーケによる工事などの水害対策の軌跡を確認する。</li> <li>・輪中地帯の人々の自衛手段を確認する。</li> <li>・「木曾三川の河口付近の写真」から豊富な河川の水を利用した水田地帯であることに気付かせる。</li> </ul> <p>〈予想される答え〉</p> <p>→水害、日照り、害虫など…<u>凶作</u>    ハードな農作業…<u>重労働</u>    後継者問題・高齢化問題…<u>次世代</u>    国産ライバルが多い…<u>産地間競争</u>    さらに、安い外国産のライバル など</p> <p>〈予想される答え〉</p> <p>→水害…<u>堤防</u>で対応    凶作…<u>品種改良</u>    重労働…<u>機械化</u>    次世代…<u>若者にPR</u>    産地間競争…<u>銘柄米</u>でPR、ゴパンなどの<u>新商品</u>    外国産には…<u>味で勝負</u> など</p>

教材「三重の文化」を活用した授業構成案（四日市市作成）

<p>2次 (1時間)</p>	<p><b>【扇状地とお茶作り】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図から気付くことは？</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>【三重の文化】大台茶(P50)</b> →茶畑、背景が山、電信柱？の上に扇風機</li> <li>・ お茶の栽培の条件を知る。</li> <li>・ お茶栽培の分布について確認する</li> <li>・ 主食である米ではなく、茶を栽培する理由を考察する。</li> <li>・ 日本の茶は高価であることを確認する。</li> <li>・ 外国産の安価なお茶に対抗するための解決策を考察する。</li> </ul>  <p><b>お茶栽培(伊勢茶)(P15)</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 扇風機…霜よけ</li> <li>・ <b>【三重の文化】大台茶(P50)</b>から三重県の気候(平均気温14~15℃、年間降水量1500mm以上)がお茶栽培に適していることを確認する。</li> <li>・ 地形図(地図帳)で、茶畑の地図記号を探す →扇状地に多い。 →水はけの良いところの説明をする(根腐れ)。</li> </ul> <p>〈予想される答え〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>→米作りに適さない⇔茶に適した土地(扇状地) 茶の方が儲かる(10aで約10万円:60~70万円) 年に何度か作れる(4回) プライドがある ライバルが少ない など</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2番茶…1000円/kg</li> <li>・ 中国・ベトナム産…300~400円/kg</li> </ul> <p>〈予想される答え〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>→味で勝負… <b>【三重の文化】お茶栽培(P15)</b>の玉露の栽培を確認。 米と同じく、ブランド化する <b>(P15)</b>「伊勢茶」 安く作る…機械化・大規模経営 ペットボトルでご当地茶をPRする ゆるキャラで宣伝する</li> <li>→「飲む」以外で売り出す →食べる？ 味付け？ 香り？ 薬？ 抹茶〇〇(チョコ・アイス・スナックなど)</li> </ul>
<p><b>【振り返り】</b> 三重県で行われている農業の特色をまとめよう。</p>		

教材研究(参考となる書籍・Webサイト等)

- 輪中の郷 <http://www.waju.jp/1.html>
- 木曾川下流河川事務所(木曾三川資料室)  
[http://www.cbr.mlit.go.jp/kisokaryu/sub\\_index/sub\\_index\\_04.html](http://www.cbr.mlit.go.jp/kisokaryu/sub_index/sub_index_04.html)
- 伊勢茶推進協議会 <http://www.isecha.net/>
- 四日市市茶業振興センター  
<http://www.city.yokkaichi.mie.jp/farm/chashin/farm8.html>

この単元で活用する題材 (教材「三重の文化」掲載ページ)

お茶栽培 (伊勢茶) (P14)、四日市港 (P16)、石油化学コンビナート (P17)

単元名と単元目標

【教科名・分野名】 社会・地理的分野

【単元名】 身近な地域の調査

【単元目標】 日本における地域的特色から、それらを身近な地域に見だし三重における農業や工業の特徴をとらえる。

題材と単元との関わり

- ・日本の地形的特色 (造山帯に属し、地形の起伏が激しい) によって形成される扇状地は、身近な地域として四日市の水沢地区に見られる。その土地活用の実践 (茶栽培) から、扇状地の特徴や三重県における農業の特色をとらえさせたい。
- ・三重県は日本における代表的な工業地帯 (中京工業地帯) に属する。生徒の実態として、トヨタ自動車やホンダ自動車の鈴鹿サーキット、さらには四日市の石油化学コンビナートに関する知識を有しており、石油化学コンビナートや四日市港が発展した背景を地理的な視点から追究した。

単元の展開 (全 4 時間計画)

次	主な学習内容	指導上の留意点 教材「三重の文化」との関連
1 次 (2 時間)	<p>【単元を貫く問】 三重県の地域的特色は農業や工業とどのように結びついているだろうか。</p> <p>日本の平野の種類、特色</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国と日本の河川比較</li> <li>・平野と盆地</li> <li>・平野の種類 (扇状地、三角州、台地)</li> <li>・地形図の読図 (地図記号の確認)</li> <li>・三重の農業</li> </ul>  <p>水沢地区の茶畑</p>	<p>○地形図や水沢地区の土地活用の写真から、茶の栽培が盛んに行われる理由を考える。</p> <p>○茶栽培に適する気候、地形から三重の他に、静岡や鹿児島でも盛んな理由を考える。</p> <p>○茶以外の三重の農業の特色 (東紀州のミカンなど) をとらえる。</p> <p>【三重の文化】 お茶栽培 (P14)</p>  <p>水沢地区の地形図</p>

教材「三重の文化」を活用した授業構成案 (朝日町作成)

2 次 (2 時間)	<p>日本の工業</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・日本の工業の特色 (加工貿易、産業の空洞化、工業の変遷)</li><li>・日本において工業が盛んな地域 (太平洋ベルト)</li><li>・中京工業地帯の特徴</li><li>・石油化学コンビナート</li><li>・工業化の弊害となった環境問題</li><li>・四日市港</li><li>・三重県の工業</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○既習内容である日本の鉱山資源から日本の工業の特徴をとらえる。</li><li>○日本において、工業が盛んに行われている地域をとらえ、それらが帯状に連なっていることを知る。</li><li>○工業地域が立地する地域の特徴を考えさせる。</li><li>○中京工業地帯や三重県に見られる製造会社や工場から中京工業地帯の特徴をとらえさせる。</li><li>○身近な工業地区として、四日市の石油化学コンビナートを取り上げ具体的に工業の様子を知る。 また、工業化の一方で起きた環境問題について取り上げる。</li><li>○上記の環境問題に対し、現在ほどのようなくみがないのか知る。</li><li>○四日市港が果たす役割・機能について三重の地域的な側面から生徒同士で話し合わせる。</li></ul> <p style="text-align: right;"><b>【三重の文化】</b>      四日市港 (P16) 石油化学コンビナート (P17)</p>
	<p><b>【単元を貫く問】</b> 三重県の地域的特色と農業や工業の発達の様子を関連付けてまとめよう。</p>	

**教材研究(参考となる書籍・Webサイト等)**

- ・ 公共財団法人 国際環境技術移転センター (ICE TT Web ページ <http://www.icett.or.jp/>)
- ・ 石油化学工業協会 Web ページ <http://www.jpca.or.jp/62ability/00index.htm>

教材「三重の文化」を活用した授業構成案 (川越町作成)

この単元で活用する題材 (教材「三重の文化」掲載ページ)

四日市の石油精製工場 (P17)、御浜のみかん (P90)、三重県の伝統的工芸品 (P101~103)

単元名と単元目標

【教科名・分野名】 社会・地理的分野 【単元名】 中部地方



【単元目標】

- ・ 三つの地域の地理的条件から異なる産業が発達していることを理解させる。

題材と単元との関わり

- ・ 積雪のため農業ができない冬の副業から地場産業が発達した北陸地方を学習したうえで、三重県でも指定されている伝統的工芸品に興味をもたせたい。

単元の展開 (全4時間計画)

次	主な学習内容	指導上の留意点 教材「三重の文化」との関連												
1次	<p>【単元を貫く問】 中部地方ではなぜ地域によって異なる産業が発達しているのだろうか。</p>													
2次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中部地方の地形や、東海・中央高地・北陸の気候の違いを下記のようにまとめ、このような違いが生まれる仕組みを理解する。</li> </ul> <p>東海…冬でも比較的温暖で、降水量は冬より夏の方が多い</p> <p>中央高地…冬の寒さが厳しく、降水量は一年を通して少なめ目</p> <p>北陸…冬には、雪が多く降る</p> <p style="text-align: center;">↓</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3つの地域の雨温図や景観写真などを比較して、それぞれの地域の気候の違いを読み取らせまとめる。</li> <li>・ それぞれの地域の気候の特徴を決定づけている因子と関連づけて、説明できるようにする。</li> </ul> <p>東海・・・夏の南東からの湿った季節風 (冬の季節風は、水分を失って、乾燥した風となって吹きつける)</p> <p>中央高地…海から離れていること 標高が高いこと</p> <p>北陸・・・冬の北西からの冷たい季節風の影響 (日本海を渡る間に水分を含むこと)</p>												
3次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東海、中央高地、北陸の工業や農業の特色について下記のようにまとめる。</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>工業</th> <th>農業</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東海</td> <td>綿織物⇒機械工業 自動車、鉄鋼</td> <td>水田 (輪中)、野菜、みかん・茶、電照菊</td> </tr> <tr> <td>中央高地</td> <td>製糸業 ↓ 精密機械工業</td> <td>桑栽培、養蚕 ↓ 果物栽培</td> </tr> <tr> <td>北陸</td> <td>伝統産業 アルミニウム</td> <td>水田単作</td> </tr> </tbody> </table>		工業	農業	東海	綿織物⇒機械工業 自動車、鉄鋼	水田 (輪中)、野菜、みかん・茶、電照菊	中央高地	製糸業 ↓ 精密機械工業	桑栽培、養蚕 ↓ 果物栽培	北陸	伝統産業 アルミニウム	水田単作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東海の工業や農業の一例として、教材「三重の文化」の下記の写真などが活用できる。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>四日市の石油精製工場</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>御浜のみかん</p> </div> </div>
	工業	農業												
東海	綿織物⇒機械工業 自動車、鉄鋼	水田 (輪中)、野菜、みかん・茶、電照菊												
中央高地	製糸業 ↓ 精密機械工業	桑栽培、養蚕 ↓ 果物栽培												
北陸	伝統産業 アルミニウム	水田単作												



教材「三重の文化」を活用した授業構成案 (川越町作成)

4  
次

・表から、3つの地域の工業・農業それぞれにみられる対照的な特徴を読み取り、このような特徴が生まれた理由を理解する。

(作業例)

中央高地の地形図の経年変化を読み取らせ、農業と工業の変化の様子をまとめる。

(発問例)

北陸は水田単作地帯であるが、東海地方ではさまざまな作物が栽培されているのはなぜか。

(課題例)

教材「三重の文化」に掲載されている「三重県の伝統工芸品」を取り上げ、それぞれの特徴や歴史について調べてみよう。

・対照的な特徴が生まれた背景を考えるための例に示したような作業、発問、課題を通じて、考えを深める。

・桑・養蚕・製糸業の関連、製糸業が衰えた理由、中央高地と東海の果物栽培の共通点と相などを調べたり、話し合ったりすることを通じて、中央高地の農業と工業の変化の様子を理解する。

・気候や自然環境との関わりから北陸の産業について理解する。



・北陸で冬の副業として地場産業が発展した理由を、気候や自然環境と関連付けて説明できるようにする。



・三重県にも伝統的工芸品が多数あることを知る。近畿地方の三重県の授業で特産物などに軽く触れてあるので、さらに関心を高められるとよい。

・三重県は北陸ほど雪の多くないが、たくさんの伝統工芸品が見られることに着目させ、多角的な視点から発達の要因を考えさせる。

**【いなべ市】**  
8 地張り提灯

**【いなべ市・桑名市】**  
7 和太鼓

**【桑名市】**  
1 桑名盆 2 桑名鑄物  
3 多度の弾き猿 4 桑名刃物  
5 桑名萬古焼 6 桑名箆笥

**【津市】**  
12 伊勢木綿 13 阿漕焼  
14 高田仏壇 15 竹細工  
16 なすび団扇

**北勢**

1 桑名盆 2 桑名鑄物  
3 多度の弾き猿 4 桑名刃物 5 桑名萬古焼  
6 桑名箆笥 7 和太鼓 8 地張り提灯  
9 日永うちわ 10 四日市の提灯 11 蘭の桶

教材「三重の文化」 三重県の伝統工芸品 (※北部のみを表示)

【振り返り】 三重県と中部地方の他の県の産業の発達の様子についてまとめよう。